

かるがも

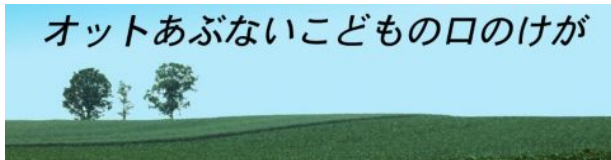


第6号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
:tp://www.hosp.pref.chiba.jp/kodomo/

今回はこども病院市民公開講座の一部を広報誌かるがもに載せることにしました。

☆☆☆☆



□

1) 小児の口腔外傷の特性

a) 受傷時年齢

小児の口の中やその周囲のけがはいくつかの特徴があります。当院で対応した患者さんの統計をとってみますと、1歳、2歳でのケガが多く、次いで5歳が多くなっています。

b) 受傷原因

ケガの原因をみますと転倒が65%、転落が19%と多く、そのほか押されて転んだり、自転車が倒れてのケガなどがありました。1〜2歳は運動機能が未発達のため転び易く、ケガをしやすいと思われれます。

c) 受傷場所

ケガを生じた場所は約半数は家のなかで、1/4は公園や道など外でのケガでした。その他には学校内でのケガもあります。即ち1から2歳では家の中で転んだり、転落したりするケースが多いことがはっきりしています。5歳位では動きが活発になり家の中ではなく外でのケガが増える傾向でした。

d) けがに関係した物品

転倒によるケガが多いことは先に述べましたが、転棟し機にぶつかった例が多くみられました。また椅子、階段からの転落もこれに次ぐ頻度でし

た。外では自転車の補助椅子、バギーからの転落、ブロックの角への転倒などによるケガなどもみられました。その他箸、じょうろの先、歯ブラシ、笛、ネジ、定規、プラスチックのレールなどを口に入れて転倒し口蓋(上あご)や頬粘膜に深く突き刺さったり、口蓋の粘膜が広範囲に剥がれたり、穴が開いたりした例もありました。これらの例では命取りになることもあり得ますので注意が必要です。(3年前細い棒がのどに刺さったことによる死亡例が東京でありました)

1〜2歳の小児は危険なことは判らず、なんでも口の中に入れてしまうことがよくあり、大人のご感覚で考えていると予想外の行動を起こしてしまいます。細長いもの、棒状のものに手が届かないように配慮して下さい。歯ブラシの習慣をつける時は口に歯ブラシをいれて動き回らないようにすることが必要です。

2) 診断と処置

口の中や周囲のケガを歯や骨などの硬い組織(硬組織)と、唇や舌などの柔らかい組織(軟組織)に分けてどのような状態があったかまとめました。

a) 硬組織外傷

歯牙不完全脱臼：これは事故で歯がぐらつき、とれそうになった状態です。

歯牙完全脱臼：これは歯が元の位置から脱落してしまった状態です。

歯槽骨骨折：歯を支えている骨がくだけ、歯は不完全または完全脱臼になっている状態です。

歯冠破折：ぶつけたため歯が欠けた状態です。

歯牙打撲:ぶつけたため一時的に痛みがある状態です。自然に症状は治ります。

顎骨骨折:歯槽骨は歯の周囲の部分ですが、顎骨骨折はいわゆる顎の骨の骨折です。この場合は骨に付着している筋肉に引っ張られ骨片が移動して歯が噛み合わず物がかめなくなります。頻度の高かったものから紹介しました。

b) 硬組織外傷の処置

歯槽骨骨折、歯牙不完全脱臼、歯牙完全脱臼などでは歯や骨を元の位置に戻し(整復)損傷のない部分と連結して固定することで元の状態に回復できる場合が多くみられます。歯のはえかわりのため乳歯の歯根が吸収されている場合は、その歯は抜歯し永久歯の萌出を待たなければなりません。完全脱臼でも条件がよければ再植し歯の機能を回復できる場合があります。顎骨骨折は骨が本来の位置に戻るよう噛み合わせをみながら整復して、骨がつくまで固定します。多数の歯が事故でなくなった場合は義歯を入れ、成長に合わせて調整し、また作り直していくことが必要となります。受傷後はなるべく早く医療機関を受診することが必要です。

c) 軟組織外傷

口唇、上唇小帯裂傷:前方に転ぶと鼻から上唇に傷を受け易くなります。このため唇や上唇の裏にある細長い小帯が切れる場合が多くみられました。

舌裂傷:1-2歳では転んで舌を噛んでしまう場合も多くみられました。

口腔前庭裂傷:唇と歯槽部(歯が有る場所)の移行部の粘膜の傷もありました。

口蓋裂傷:細長いものが口蓋に刺さったり、口蓋粘膜が剥がれたり、粘膜に広い穴が開いたりした例もありました。

顔面裂傷:ブロックに転倒し、顔と口の中が貫通した例などの、顔面の傷もありました。

d) 軟組織外傷の処置

口の中での出血がつづく、それを飲み込んで胃の内容物を吐くことがあります。出血が持続すると貧血をおこすこともあります。食事をとることもままなりません。軟組織からの出血は傷を縫合することで多くは止まりますが、血液を固める因子が不足している病気ではその補充が必要となることもあります。口の中のケガからの出血が止まりにくいことから血液を固める因子が不足している病気が発見されることもあります。血が止まりにくい場合は病院を受診するようにして下さい。

3) 口の中のけがの予防

ケガの予防について注意することをまとめてみました。

- 1) 家の中でつまづかないよう物を整頓する
- 2) 机の角は柔らかい材料で保護する
- 3) 細長いものを持ったときは目を離さない
- 4) 幼児の歯磨き時立って歩きまわらないよう注意する
- 5) 危険が予想されるものはこどもの手が届かない場所に置く

などに注意して下さい。

